



生活者ネットワーク 国分寺市議会議員 TAKE FREE

マサーヨがゆく vol.15

日々の暮らしと政治はつながっています。これは、マサーヨこと小坂まさ代が、市政のことをより身近に感じていただけたらとの思いをこめて、仲間たちと作ったレポートです。ひとりひとりが自分らしく生きていける社会にしていけるために、あなたの声を聞かせてください。



Instagramも
ぜひご覧ください
@masayokosaka



今回は、よりみちことりさんにおじゃまします！

出張！マサーヨがきく



2026/11/04 (水) 13:00 ~ 19:00

どなたでも大歓迎！ご予約不要！

おとなも子どももおしゃべりしにお立ち寄りください！

①よりみちことり 国分寺市東元町2-18-16

自転車置き場あります。国分寺駅南口徒歩7分

お問い合わせフォーム <https://kokubunji.seikatsusha.me/contact/>



『あたまにかきの木』教育画劇
文：小沢正 絵：田島征三

民話原作のこの絵本の主人公は酒飲みで怠け者のじろべえさん。酔い覚ましに食べた柿の種をうっかり飲み込んでしまい…。絵も話も、おからでゆかいゆかい！秋の読み聞かせにピッタリの夢のようなおはなし。じろべえさんのようにいられるなら、柿の種を飲んじゃうぞ。



小坂まさ代 暮らしのエッセイ

「ほろ酔い夜話のこと」

2014年の夏、あるカフェのイベントで、大人のための絵本の読み聞かせがあった。絵本の題名は思い出せないけれど、読み手の男性の低い声が耳に心地良かったことはよく覚えている。

そのとき、たまたま隣り合わせた知人と

「おとなの読み聞かせ、いいですねえ」

「ですねえ」

「こういうの、やれたらいいですねえ」

「飲みながら、ねえ」と話した。

こんな軽い相槌が、まさか本当になるとは思っていなかった。

ところが翌週、「あの話、古本屋さんにしたら、いいねえって。打ち合わせしましょう」と連絡がきた。話はとんとん拍子に進み、その年の10月、小さな古書店で朗読会をやってみることになった。会の名前は「ほろ酔い夜話」。三人で決めた。

当時、私は幼い2人の娘を育てていたので、夜ひとりで出かけるのは特別なことだった。「ほろ酔い夜話」がある日は、実家の母に子どもを預け、好きな本とお酒を持って古本屋の扉を開ける。そこでは日頃の肩書きから解放され、ただ本と酒が好きな自分であらう。店主は「子ども、連れてきていいよ」と言ってくれたけれど、私はそうしなかった。年に数回だけ「母」という重い看板を下ろせる貴重な場所だったからだ。

毎回、どこでどうつながったのだらうと思うような人たちが集まった。

新聞記者、編集者、翻訳家、古本屋、元大学教授、帽子屋、小鳥屋、アナウンサー……。新聞で紹介されてからは、遠方から訪れる人もいた。

読むものは自由。エッセイや小説だけでなく、雑誌の記事、料理のレシピ、辞書、漫画、フランス語の詩。古書店の本棚から適当に一冊抜いて、その場で数行読む人もいた。

「母が子連れなのではなく、僕が親連れで来ました」と言った小学生は、国語の授業で書いた自作の詩を披露した。二十歳になったばかりの大学生は「実は今夜、生まれて初めてお酒を飲むんです」とはにかみながら、「ほろよい」という缶チューハイを飲み、芥川賞作家の作品を読んだ。

彼はその後も何度も参加してくれた。

そして数年後、うれしい知らせが届いた。ある書店が公募した「本屋エッセイ賞」で、彼の作品が大賞に選ばれたという。タイトルは「ほろ酔い夜話のこと」。古書店主が「最初の3行で眼鏡が曇るよ」と言って、手渡してくれた。

その最後には「こんな夜がこれから続く生活のどこかにまた用意されていけばいいな」と綴られていた。何気なくはじめた小さな集まりを、大切に持ち帰ってくれていた人がいた。そのことが、泣きたいほどうれしかった。

大切な文章を持ち寄り、読み、聴き、話し。誰かが読んだ言葉から、聴いた人の記憶が開き、話が思いつけない方向へ枝分かれしていく。

6年間で14回。コロナ禍で休止するまで、店主と実家の母の都合がつく夜に、不定期で開いた。娘たちは大きくなり、私も歳を重ねた。夜ひとりで出かけることが特別ではなくなったのは、いつの頃からだっただろう。

「ほろ酔い夜話」は場所と形を変え、今では毎月続いている。

本を開き、グラスを傾け、誰かの声に耳を澄ます。

そのあいだは、普段までとっている役割がすりりと落ちていく。

読んでもいい。読まなくてもいい。

今月、45回を迎える小さな朗読会。これからも、細く長く続けていけたらと思っている。

● 10月30日19時から、よりみちことりで開催予定。

決算特別委員会が行われました

? おしえてマサーヨ / 市の決算ってなあに？



特別委員会の様子を動画で見ることができます。ぜひご覧ください！

● 市の「決算」とは

市の「決算」とは、1年間にどれだけのお金が入り、何に使われたかを確かめることです。市議会では、予算どおりに使われたかだけでなく、それぞれの事業が市民の暮らしに役立ったかも確認します。令和7年度の国分寺市の一般会計は、歳入が約636億5千万円。市税収入は前年度より約11億7千万円増え、約264億円に。個人市民税が増えた主な理由は、納税する人の数や所得が増えたことです。

● 財政の「ゆとり」は小さい状態が続いています

「経常収支比率」は、毎年入ってくるお金に対して、人件費や福祉、借金の返済など、毎年必要になるお金がどれくらいあるかを示す割合です。国分寺市は95.8%、多摩26市では22位でした。

● わかりやすいという

毎年入ってくるお金が100円なら、そのうち約96円が毎年必要になる支出に使われているイメージです。割合が高いほど、新しい課題に使えるお金の余裕は小さくなります。

● ふるさと納税による市民税の流出額は約10億円！

令和7年度は、ふるさと納税による市民税の流出額が約10億円となりました。寄付先を選べる制度である一方、住んでいるまちの財源が減るという面もあります。

● 何を優先し、何を見直すのか

市の財源には限りがある一方で、物価や人件費の上昇、公共施設の老朽化、子育て、介護、孤立への支援、災害への備えなど、市に求められる役割は広がっています。市では、職員による出前講座も行っています。私たちが納めた税金の使い道を、暮らしの視点で見つめ直してみませんか。

市政のここが知りたい
出前講座



市のHP ページ番号検索

1002521 表示

<https://www.city.kokubunji.tokyo.jp/curashi/gakushu/1002521.html>

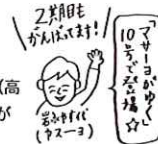
参照資料：国分寺市財政課『令和7年度 ことくぶんの決算』
令和8年第1回定例会予算特別委員会資料第4号「財政フレーム試算」

小坂まさ代 国分寺の暮らし

第一子の妊娠中、壁一面作り付けの本棚のある古いアパートと出会い、国分寺に転居。2021より国分寺市議会議員。暮らしやすいまちにと、子どもも含めた市民の声を市に届け続けている。泉町在住。総務委員会副委員長。

生活者ネットワークの活動

市民による市民のための地域の政治団体です。3人の市議会議員（高瀬かおる、小坂まさ代、松岡まり）と都議会議員（岩永やす代）が市政と都政連携して活動中！



生活者ネットこくぶんじ No.191 小坂まさ代の活動を紹介します

発行日：2026年10月20日 発行：国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者：田中由紀

〒185-0024 国分寺市泉町3-33-16 西国分寺ハイツ 103 TEL: 042-328-1864

FAX: 042-328-1878 ☑ kokubunji@seikatsusha.net <https://kokubunji.seikatsusha.me>